

生き物と環境

ねらい・目的



【理科として】

- ・生き物と食べ物、水及び空気とのかかわりを関係付けて調べ、自然界のつながりを統合的に考える。
- ・生き物は、食べ物、水及び空気を通して、周囲の環境とかかわって生きていることを理解する。

【環境教育として】

- ・環境教育における小学校6年間の集大成として、今まで環境にかかわって学習したこと、または取り組んできたことをまとめて整理したり、新たに興味・関心を持ったことを調べたりしていくことで、自分と環境のかかわりについて自分で考えようとする。
- ・小学校で環境について学んだことを中学校へつなげていく意識を持つとともに、今後も自分ができることを考え、実践していこうとする態度を育てる。

取り組みの背景として



小学校6年間で、各教科や総合的な学習の時間、学校全体や児童会の活動で環境について学習したり、環境を守るための取り組みをしてきています。

そこで

子どもがこれまで学習してきたことや取り組んできたことを、集大成としてまとめます。

そこから

地球環境に対して自分の考えをしっかり持つとともに、環境保全に対する取り組みの必要性を感じてもらい、これからも自分が取り組んできたことをしていこうとする意識や態度を育てます。そして、中学校での環境教育へとつなげていきます。

取り組み項目(実施方法)



6年生の理科単元「生き物とかんきょう」の学習の中で、本プログラムを扱う。3学期の学習となるので、小学校で学習してきた環境教育の総まとめとして位置づけるとともに、発展的に扱うことで、他の教科や総合的な学習にも関連付けて学習していく。

取り組み1 理科 単元名「生き物とかんきょう」

→本プログラムの導入として学習する。

○私たちは、空気や水、生き物と、どのようなかかわり合いがあるのか調べよう。

- ・人は、自然の中で空気や水、生き物とかかわって生活しているよ。
- ・ものを燃やすことで、空気を汚しているよ。
- ・生活排水などで、川や湖、海が汚れているよ。
- ・環境が変わると、生き物が生きていけなくなったりするよ。

ポイント

今まで、子どもが環境にかかわって学習してきたことや、取り組んできたことを振り返るようにする。

今まで環境について学習してきたことがいっぱいあるよ。みんなでエコライフに取り組んだよ。もう一度、見直したり調べたりしてまとめてみよう。

※取り組み2～4は、取り組みの方法を例として記載しています。

取り組み2 まず、自分のテーマを決めよう

今まで、教科や総合学習、環境教育プログラムなどで学習してきたことをもとに、テーマを決定していく。

新たに興味・関心をもった環境問題や環境保全の取り組みをテーマにする。

◇大きなテーマから

・地球温暖化の原因や影響など

◇様々な環境問題から

・大気汚染、水質汚濁、森林伐採など

◇自分の取り組みから

・エコライフ活動、省エネ活動、ごみ減量やごみの分別・リサイクルなど

ポイント

まずは、自分が環境に関して学習したこと、または学級や学年、学校で取り組んできたことを振り返ることを大切にする。

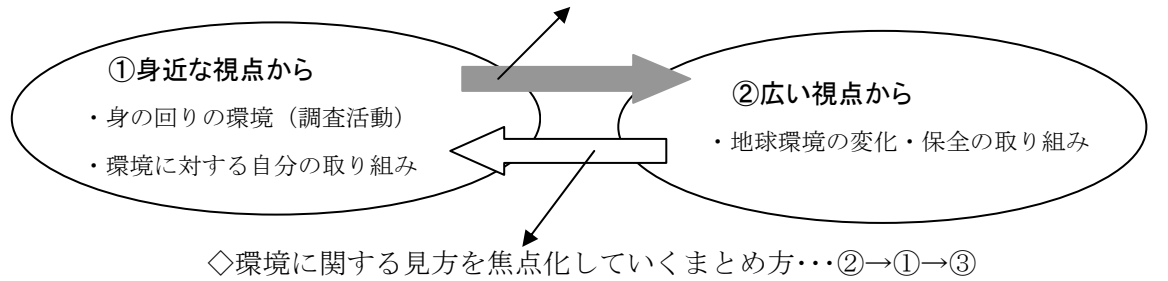
身近な環境、広い環境（地球環境や世界的な規模）など、自分とのかかわりを関係付けてテーマを決めていくようにする。

小学校での総まとめとして、環境に対する自分のテーマが決まったよ。

取り組み3 まとめや整理の仕方は・・・

まとめ方の例：こんな順序で構成しては？

◇環境に関する見方を広げていくまとめ方・・・①→②→③



◇環境に関する見方を焦点化していくまとめ方・・・②→①→③

③これから自分が考えていかなければならないこと、取り組んでいくことをまとめる。

・自分の考えたことや意見が、ここに色濃く出るように。

ポイント

自分が学習してきたことを整理して終わってしまったり、調べたことをまとめて終わるのではなく、環境問題や保全について、今後の自分のかかわり方について考えたこと（③の部分）を位置づけるようにする。

○身近な環境について、自分が実感できたことを整理しよう。

- ・自分たちが学習してきた記録を使う。
- ・他の環境プログラムの内容から、自分のエコ活動が「環境にこんなに役立った。」ということ調べる。
《参考》「さっぽろエコとくガイド」

- ・理科「生き物と環境」、または環境にかかわる単元の実験や観察から。



ポイント

子どもが自ら環境にかかわったこと、これまで取り組んできたこと、これから取り組んでできることを、まとめの中に位置づけるようにする。

○まとめの方法としては…。

◇卒業記念文集（論文）として

- ・卒業を前に、小学校6年間で学んだ環境に関する学習を振り返り卒業記念として作文（論文）としてまとめる。

◇「私の環境レポート」として

- ・小学校6年間で学んだ環境に関する学習を整理したり、新たに調べたことをレポートとしてまとめる。

冬休みの自由研究として取り組むこともできる。

ポイント

国語の複合単元で学習したことや、社会・理科の学習でまとめとして整理してきた学習を生かし、作文（論文）やレポートにまとめていくようにする。

今まで環境について取り組んできたこと、学習したことをまとめることができた。

取り組み4

「わたしと環境」発表会をしよう

○小学校で学習した「わたしと環境」について、発表会を開催して意見の交換をしよう。

◇テーマ別の発表、小グループでの発表など、場の設定を工夫する

- ・これからも、自然環境を守る活動をしていく必要があるよ。
- ・人だけではなく、生き物が住みやすい地球にしていくことが大切だ。

ポイント

小学校で取り組んだ環境教育の総まとめとして、子どもが今後も興味・関心を持ち、その意識や取り組みを継続して中学校へつなげるようにする。

わたしたちの命を支えてくれる地球を大切にするため、これからも環境に対して自分ができることを継続していこう。

取り組み効果



効果 1 小学校で学習したこと、自分の取り組みを振り返ることができる

環境問題、地球温暖化など、子どもが学習したことをここでもう一度見直し、その原因や対策、または自分の取り組みに対しても振り返ることができる。また、小学校での環境の学びの総まとめとして位置づけ、財産化していくことができる。

効果 2 環境と人のかかわりについて理解できる

現在の地球環境を悪化させたのは人間である。しかし、人間もその環境の中で生きていくことから、地球を汚していたことを反省し、自然環境について保全していくことの大切さを感じることができる。また、自分と空気、水及び生き物が互いにかかわり合いながら生きていることも考えることができる。

効果 3 中学へのつなぎとして、取り組みを継続していく必要を意識する

この学習を通して、子どもはさらに地球環境の保全、またはその取り組みの必要を意識していく。小学校で学習してきたことを環境について、「自分ができること」を考え実行していくこと、また今までの取り組みを継続したり、広げていったりすることの大切さを感じとり、中学校への学習へとつなげていくことができる。

他のプログラムとのつながり



■発信！児童委員会から全校児童へ！（小学校編）

児童会活動で環境に配慮する活動を位置づけ、学校全体で取り組む。

■目ざせ！エコライフスクール（小学校編）

エコライフレポートを活用して、学校全体でエコ行動に取り組む。

★総合的環境副教材

5・6年生用 1 地球の環境

参考資料等



1 エコライフについてわかる「さっぽろエコとくガイド」

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/ecotokuguide/index.html>

2 温暖化に関する札幌市の取り組みがわかる環境保全のホームページ

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/>

3 温暖化に関する影響についてわかる書籍

「不都合な真実」 アル・ゴア/著 枝広淳子/訳 ランダムハウス講談社